

小矢部市大谷博物館



小矢部市教育委員会



小矢部市大谷博物館「旧大谷家住宅」

小矢部市名誉市民の実業家(故)大谷米太郎・
竹次郎兄弟の生誕の地に、1935年（昭和10）に
米太郎氏が建て直した住宅で、妻のハルさんが
1957年（昭和32）に亡くなるまで暮らしてしまし
た。

砺波地方に多くみられる瓦屋根切妻妻入りの
「アズマダチ」という農家建築様式でつくられて
います。アズマダチの家は、正面の妻口をほぼ東
に向けて建てられ、二枚の大きな瓦屋根の下に
束・貫・梁の格子組とその間を白壁で塗られた妻
意匠をもつことが特徴です。

2013年（平成25）にこの住宅と敷地が米太郎氏
の孫の利勝氏から小矢部市に寄贈されたことか
ら、その活用のために改修工事を実施し、民俗資
料等の展示や名誉市民の大谷家の方々を顕彰する
記念室を設けた小矢部市大谷博物館として公開す
ることとしました。

なお、敷地内のすべての建物は平成27年3月26
日付で国登録有形文化財として登録されました。



大谷家記念室



小矢部市名誉市民の大谷家の方々

おおたによね たろう

大谷米太郎 氏【1881年(明治14)～1968年(昭和43)】



砺波郡正得村（現小矢部市）水落に生まれ、家が貧しかったために小学校に通うこともできずに農家の小作として働いていましたが、30歳の時に一念発起して上京しました。上京後はいろいろな仕事を経験しながら相撲界に入門し、巡業で全国をまわりながら各地の工場を訪ねるなど、経済についての見識を深めました。

ケガで力士を引退後、酒の小売業を経て鉄鋼圧延用のロールを製造する会社（後の大谷重工業）を起業し、関東大震災、太平洋戦争の苦難を乗り越えて会社を大きく発展させました。

その後、ホテルニューオータニ、東京卸売センターなど鉄鋼・ホテル・流通業の分野で事業に成功し、大きな業績を残しました。

たけじろう

大谷竹次郎 氏【1895年(明治28)～1971年(昭和46)】



米太郎氏の弟。17歳で兄を頼って上京し、相撲界に入門しました。力士引退後は兄の仕事を助け、大谷重工業などの事業を大きく発展させました。

その後、昭和電極（現SECカーボン）、大谷製鉄など鉄鋼関連の分野で事業に成功し、大きな業績を残しました。

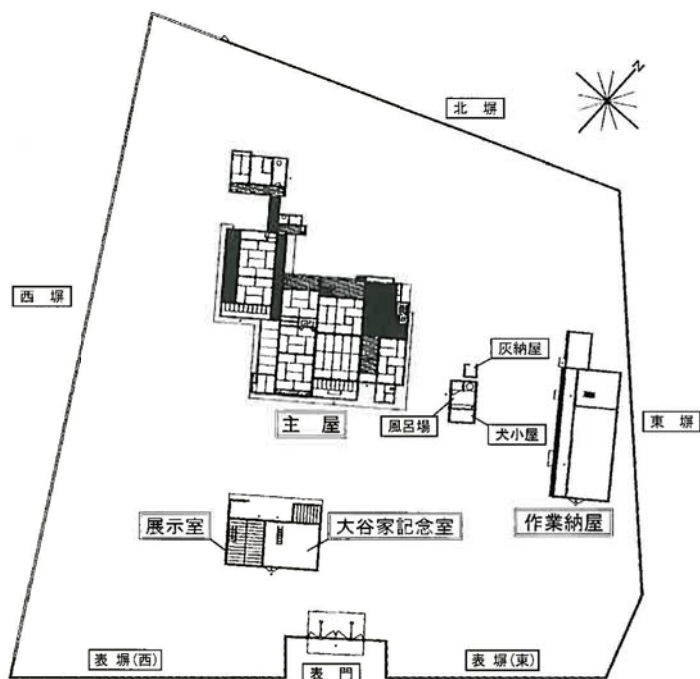
いさむ

大谷 勇 氏【1920年(大正9)～2012年(平成24)】

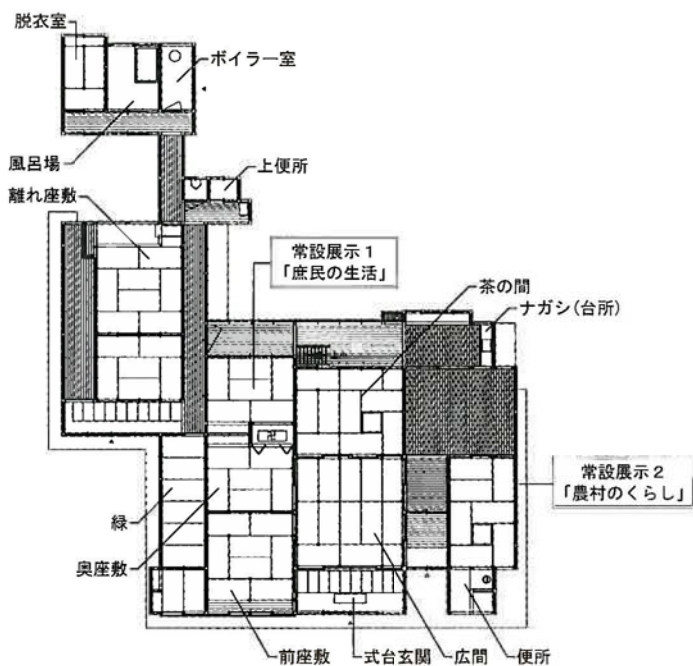


兵庫県で早崎家の長男として生まれ、18歳で大谷重工業に入社しました。子供のいなかった大谷竹次郎氏にその働きぶりや人柄を見込まれて養子に迎えられ、大谷製鉄やSECカーボンなどの事業を継承して大きな業績を残しました。

竹次郎氏の死後にはその遺志を継いで、小矢部市民プールや大谷中学校、クロスランドおやべの建設等に多額の寄付をされ、小矢部市の発展に多大な貢献をされました。



◆小矢部市大谷博物館 建物配置図



◆主屋平面図

◆常設展示



「農村のくらし」



「庶民のくらし」

[illegible]

〒932-8611 富山県小矢部市本町 1 番 1 号
TEL (0766) 67-1760